

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2009

課題番号：18401027

研究課題名（和文） 国家と人種の壁を越えて：日米関係と活動家・学者・兵士の環太平洋ネットワーク

研究課題名（英文） Transcending the Nation-State and Race: US-Japan Relations and Activists, Scholars, and Soldiers in Pacific Ocean Rim Network

研究代表者

H Brian Masaru （ハヤシ ブライアン マサル）

京都大学・人間・環境学研究科・准教授

研究者番号：30314165

研究成果の概要（和文）：本研究は戦後のアジア系アメリカ人の「白人化」（whitening）プロセスに対し、第二次世界大戦期間中に OSS（Office of Strategic Services 戦略情報局）に加入したアジア系アメリカ人はアメリカエリートとのコネクションをもっていたにもかかわらず、大きな影響を与えていなかったことを判明した。

研究成果の概要（英文）：This research demonstrated that the postwar “whitening” process for Asian Americans may not have been caused by established social connections with America’s elites through organizations such as the Office of Strategic Services during World War II, as I had previously thought.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,400,000	0	1,400,000
2007年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
年度			
総計	4,900,000	1,050,000	5,950,000

研究分野：史学

科研費の分科・細目：西洋史

キーワード：OSS、第二次世界大戦、アジア系アメリカ人

1. 研究開始当初の背景

アジア系アメリカ人と OSS を対象とする本研究は、戦後アジア系アメリカ人の「白人化」という大きなプロジェクトの中のごく小さな一部としてスタートした。多くの社会的や経済的に成功したアジア系アメリカ人が OSS と協力関係を持っていたことに注目されていなかったにもかかわらず、日系アメリカ人を研究対象とした数多くの研究書にも取り上げられなかった。最初に、HAYASHI は本研究をただ一つの小さいテーマとして想定したが、実際の調査中に、想像もつかなかった莫大な一次資料を発見したことや、本プロジェクトはオックスフォード出版会社 (Oxford University Press) によって研究書として出版されるようになった。

2. 研究の目的

本研究は、アジア系アメリカ人、とくに日系アメリカ人たちの“Whitening” (白人化) という概念を扱い、白人化をとりまくいくつかのファクターとの関連性を明白にすることを目指すものである。

3. 研究の方法

(1) OSS とアジア系アメリカ人たちの関係に対し、彼らはアメリカのエリートたちとの社会的結びつきを構築しようとし、そのつながりを利用することで、第二次世界大戦前の時期において、アメリカ社会における“Socioeconomic Ladder” (社会経済的上昇のための手段) としていた、という仮説を立てて検証する。

(2) アジア系アメリカ人のアメリカ人としてのイメージが構築されていくうえで、研究

機関における知識人たちが果たした要因を調査した。

(3) ジェンダーの視点から考察する。

4. 研究成果

本研究は三つのファクターを柱に調査を行った。

(1) アジア系アメリカ人たちの社会文化的要因である。この要因はアジア系アメリカ人たちが、社会経済的に高い地位にあるアメリカ人たちと職業を共にし、交流するなかで発展してきたと考えられる。今回取り上げた OSS はアメリカ軍部の諜報戦略をあつかう部門として名高いが、そこではルーズベルト派やバンダービルト派、トルストイ派といったアメリカを代表するようなエリートたちが職務についていた。HAYASHI は OSS とアジア系アメリカ人たちの関係に対し、以下のような仮説を立てて検証した。アジア系アメリカ人たちはアメリカのエリートたちとの社会的結びつきを構築しようとし、そのつながりを利用することで、第二次世界大戦前の時期において、アメリカ社会における“Socioeconomic Ladder” (社会経済的上昇のための手段) としていた、と。しかし、今までの調査によってその仮説が誤りであったことがわかった。そして、アジア系アメリカ人の多くは、アメリカのエリートたちとの交流から利益を得ていなかったことが判明した。それは、第二次大戦以前、OSS の社交クラブや、OSS の関係集会に参加していた者たちでさえ同様であった。

(2) アジア系アメリカ人のアメリカ人イ

メージが構築されていくうえで、研究機関における学者たちが果たした役割である。本研究において、HAYASHI が特に重要視したのは、“Institute of Pacific Relations”の役割である。この機関は第二次世界大戦以前のアメリカにおいて東アジア研究を専門とする学者たちの中心地であり、大きな影響力があったと想定した。しかし、今回の調査で Institute of Pacific Relations は、アジア系アメリカ人イメージの構築において、大戦期間中に想定したような大きな役割を果たしてはおらず、戦後には、想像した以上の速さで、その影響力を失ってしまっていたということ、を判明した。その一方で、HAYASHI は、特定の何人かの学者たちは、アジア系アメリカ人のアメリカ人イメージの構成に関わっていたことを発見した。そして、アジア系アメリカ人のイメージ構成に対し、学者人たちの果たした影響という点においては、推量が一定程度正しかったことを立証できた。

(3) ジェンダーの観点である。今回の調査の中で、HAYASHI は Institute of Pacific Relations に関わりのある学者たちや活動家たちと、他のコスモポリタン主義的なグループたちがアジア系アメリカ人のイメージを構成してゆく上での、ジェンダーとの関わりに注目した。とりわけ、彼らがアジア系アメリカ人イメージを”Feminizing”(女性化)する方向へ寄与していたのではないかと考えていた。しかしながら、このジェンダーの問題は、研究分担者である安武留美の研究に代表されるように、また別個の問題としてあつかわなければならないということがわかった。

本研究における新しい発見は、HAYASHI にとって驚きとなるものが多く、新たな研究視

点と方向性を与えられた。以前から研究してきた、戦後の移民コミュニティにおける指導者たちのより詳細な分析と、彼らが「白人化」の過程に果たした役割について再び考察したいと考えている。また、アジア系アメリカ人と OSS の関係についての調査結果は、オックスフォード大学出版会からの学術書として本年度の秋頃に出版の予定であり、現在原稿の校正中である。

科研費の助成がなければ、本研究における新しい発見がなかっただろう。ここでは、科研費の助成に対し大いに感謝申し上げる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

- ① 安武留美、*The First Wave of International Women's Movement from a Japanese Perspective: Western Outreach and Japanese Women Activists during the Interwar Years*, Women's Studies International, 査読有、Forum 32 No.1、2009、13-20
- ② 安武留美、「汎太平洋婦人協会の設立と戦間期の活動—女性たちのキリスト教越境ネットワーク」、『同志社アメリカ研究』、査読有、45 巻、2009、67-82

[学会発表] (計 4 件)

- ① HAYASHI BRIAN MASARU, *Like a Chameleon: From "Japanese" to "Americans" (of Japanese Ancestry), 1957-74*, American Historical Association's Annual Meeting(AHA), 2010-1-7, San Diego USA
- ② HAYASHI BRIAN MASARU, *From Race to Nation: The evolution of the IPR, Asian American and George*

Blakeslee, 2009 annual conference of the Association for Asian American Studies(AAAs), 2009-4-25, Honolulu USA

- ③ 安武留美、*Challenging Hierarchy? : The Pan-Pacific Women's Conferences during the Interwar Years*, 2009 annual conference of the Association for Asian American Studies(AAAs), 2009-4-25, Honolulu USA
- ④ HAYASHI BRIAN MASARU, *The Dilemmas of Loyalty: OSS and Asian Americans*, Yale University, 2008-10-1, University of Southern California 2008-11-28, USA

6. 研究組織

(1) 研究代表者

H BRIAN MASARU (ハヤシ ブライアン
マサル)

京都大学・大学院人間・環境学研究科・准
教授

研究者番号：30314165

(2) 研究分担者

安武 留美 (YASUTAKE RUMI)

甲南大学・文学部・教授

研究者番号：10351751

(H20まで)